

# 本願力

横浜別院だより



## 【 本願寺横浜別院 報恩講 】

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院  
横浜市港南区日野一十一-八

FAXTEL (045) 841-1343  
(045) 841-1342  
(http://www.yokohama-honkoku.com)

### 雑感 二

輪番 坂田 智亮

秋は稔りと収穫のとき、貯蓄のとき、そんなふうな秋を迎えられる時代はよかった。人は自然とともに生きることを知ってどこか品位があったものである。ハロウィーン・・・

ケルト人の収穫祭と悪霊払いで、米国ではお化けや魔女に仮装した子どもたちが家々を脅してお菓子をもらう風習となった。それが日本ではここ数年、もっぱら若者の仮装イベントの広がりや関連グッズの売り上げ急成長で注目され、街をにぎわせるのは、かぼちゃの頭、魔女の帽子である。この頃自粛を呼びかける異常現象、なんとも貧相で、天候不順も加わり心身ともに安穩としていられないこの秋である。

報恩講が例年のごとく厳修され、別院は新たな一年を踏み出した。二昼夜に亘る法要に、登高座、式文・嘆徳文・伽陀五章、御伝鈔・御俗姓拝読などご満座までの法要は実に整然と厳肅に執行されて、この場に身を置き、改めて

仏祖崇敬の念に直参するという、希有の経験と深い感銘を覚えさせていただいている。

今回、「無二の勤行」「無二の懺悔」この二つの言葉の意味を改めて考えさせられた。恭敬讃嘆の心は必ず懺悔懺悔を伴うことである。念仏に出逢えし喜びは自己肯定と自己批判を生ずる。よろずの煩惱にしばられたるわれらが、やっと念仏申す身になりて、しかもこの歴史的社会的現実を問い、生きる使命と課題を頂く。これは真宗生活者の基本であるまいか。

先日、或る人たちのことを指して「生産性がない」と月刊紙に寄稿して物議を醸した国会議員、そのことについて、今度は、「差別する意図は一切ないし、人権を否定するようなことも一切ない」と強調して発言撤回をしなければならなかった。人間の行為には意識しての発言・行動もあれば無意識の発言・行動もある。意識した場合には反省の手掛かりが残されているが無意識には全く手がかりがつかない。他人に不快感を与え、蔑視、差別の助長に繋がったとしても無頓着になってしまうものである。

また、九州電力はソーラーなどの電気を民間へ推奨してきたが、理由はともかく川内・玄海原発の稼働と軌を一にして電力はもう買わないとの方向を發表したのは実に身勝手な選択である。失ったものはすべて取り戻せないにもかかわらず、国家や企業の政策には全く反省がない。オキナワ・フクシマの教訓を未来につなぐ仕事はどこへ行つたのか疑わざるを得ない。我が身一つを自己として、世界として、生きるのではなく、私の中に「私たち」がいるという世界観を取り戻す、ともに一つの「いのち」を生きるこの大切さを思わずにおれない。

権力や宗教への情熱は時に暴走する。  
厳しい省察が欠かせない。





# 宗祖 親鸞聖人 報恩講 厳修



十月十八日から二十日まで、報恩講が厳修されました。報恩講は本願念仏の教えを顕かにされた宗祖親鸞聖人のそのご苦勞を偲び、報いるための法要で、私たち門徒にとって一年のうちで最も大切な法要として勤められています。本年は、法話の講師に藤井慈等氏（三重教区慶法寺住職）をお迎えし、お話をいただきました。参詣者をはじめ、多くの方のお力添えをいただきました。今年も無事に勤められました。

《勤行と莊嚴》十八日の初逮夜法要から二十日の結願日中法要まで全六座、参詣者と共に厳かに勤められました。本堂の内陣も、中尊前の卓は五具足となり、仏華も見事に立てられ、普段とは違う莊嚴となります。また、初逮

夜法要では、親鸞聖人のご生涯が綴られた巻物『御伝鈔』が拝読されました。拝読者が燭（蠟燭）を捧げた僧侶を先頭に、余間からゆっくりと拝読位置まで練り歩く作法も重々しく、見どころでした。

『御伝鈔』拝読 ↓



《法話》藤井氏には、三日間お話をいただきました。静かな口調ながら、参詣者一人ひとりに呼びかけるような言葉でした。十九日の法話の後には、座談会が開かれ、藤井氏同席のもと、法話の内容を確認しつつ、日々のお念仏の大切さを確認し合いました。



→ 藤井慈等氏



→ 座談会 ← 鈴木氏

《タベの集い》十八日に開催された「タベのつどい」で、歌とお話を聴かされたのは、大谷派僧侶でシンガー・ソングライター鈴木君代さん。恩師をはじめ、多くの出会いが歌うことの原動力となっていると感じました。その歌声は、人の本来持つ優しさに期待し、問いかけているように感じました。



《感話》今年も、晨朝勤行のあとに渡辺覚氏（横浜組光源寺）と笹森隆子氏（別院門徒）から感話をいただきました。笹森氏の感話は次頁に掲載しています。



→ 渡辺覚氏



← 笹森隆子氏

《静坐》昨年より、朝食の後の時間を使い、静坐をおこなっています。静かに坐ると書きませんが、一種の呼吸法です。まず、正しい姿勢を作り、それからお腹の丹田に力を入れて、吸う、吐く、呼吸を繰り返していきます。それによって、身も心も落ち着いていきます。指導は佐竹列座が行ないました。

（文責 企画広報部主任 鞠川卓史）



→ 初逮夜法要



→ 静坐の様子



## 報恩講 晨朝感話

本願寺横浜別院門徒 笹森隆子

私は昨年七月末よりおあさじにお参りするようになりました。きっかけは、癌という何とも嫌な病気です。親も癌で早死にだったし、四人兄妹の中で私だけがなぜ、何一つもらっていないのに私だけが病気だけもらって…親を憎みました。夫も十五年前に肺がんの手術の失敗で亡くなりました。それ以前より、家族の一人がこれまた、うつ病。皇太子妃雅子さんと同じ病名で長引いておりますし、まだ幼い孫の成長や家計のことなどで、頭も心も体もぐちゃぐちゃ。でも死にたくない、死にたくないとの思いでどうにもならない悶々とした日々を過ごしていました。

前よりうつ病、私の病気について相談いただいております古田龍太郎先生が日曜日と火曜日におあさじにお参りしているとお聞きしておりましたのと、ご輪番さんが、「自分では何の能力も無いのに、どうしよう、こうしようと思んでいるのですよ。」と言われ、「そうだそうだ、そのとおりです。」と思ってお参りするようになりました。早朝、大きな声で正信偈草四句目下、三淘念仏・和讃を称え、御文をいただいた後、ご輪番さんが私の愚痴を聞いてくださり、仏法を交えた世間話などいつも寄り添っていただき、そのうち出口の無い暗闇の中で、ぐるぐる回っているだけの私だと気づくようになりました。

病氣も二つの病院では、「様子を見れば。」

とのちよつと無責任な診断でしたが、古田先生のアドバイスで生検手術を受ける決心ができました。先生のお計らいで、良き外科の先生の手術を受け、命拾いをいたしました。皆様のお陰で再びおあさじ、お寺にお参りでき、こうやってこの場に立たせてもらい嬉しいかぎりです。感謝いたします。

自分独りでは生きられないし、自分の命の長短など決して決められないのに自分の私有物だと思いつき込み、自分の狂ったものさしで判断し、都合が良ければ幸せ、悪ければ不幸だと、愚痴、腹立ち、怒り、妬み、嫉み、次々起こってきます。でも、こんな私にも呼びかけられ、一瞬でも呼び覚まされ、呼び戻されるお念仏を賜り、如来様よりいつも常に大悲されている我が身だと受け止めさせていただいております。

遠い昔、小学校の頃、近所の遊び友達と連れ合って、お寺の日曜学校に通っていたのを懐かしく思い出します。上京して半世紀にもなり、日々いろんなことが起きますが、お念仏の生活に慣れるということとは、全く不思議であり、幸せなことだと思えます。ありがとうございます。

## 【神奈川教化センター協賛金を寄付】

十月十八日に、別院門徒の松本伸子さんから、神奈川教化センター協賛金として十万円をご寄付頂きました。厚く御礼申し上げます。

## 「神奈川四ヶ組行事予定表」

## 《三浦組》

【二〇一九年寺子屋】

## 【第一回】

【日時】二月五日（火）午後一時～

【講師】片山 寛隆師

【会場】片山 寛隆師（三重教区相願寺住職）

【会場】最光寺（横須賀市野比三一九一五）

## 【第二回】

【日時】三月一日（金）午後一時～

【講師】伊東 恵深師

【会場】伊東 恵深師（三重教区西弘寺住職）

【会場】西來寺（横須賀市不入斗町三三八）

## 【第三回】

【日時】四月九日（火）午後一時～

【講師】荒山 信師

【会場】荒山 信師（名古屋教区恵林寺住職）

【会場】圓照寺（三浦市三崎四一九）

## 《湘南組》

【湘南組間法集会二〇一八】

【日時】十一月七日（水）

午後二時～午後四時三十分

【講師】三島 多聞師

【会場】三島 多聞師（高山教区真蓮寺住職・高山別院輪番）

【会場】レンブラントホテル厚木

小田急線本厚木駅「北口」から徒歩約五分

【参加費】無料

※申込み不要・直接会場へお越し下さい。



## — 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2018年11月～12月

～どなたもご自由にお参りください～

**定例法話** 午後1時30分より

11月9日(金)横浜組 智廣寺 橋本正博 師

12月9日(日)横浜組 真照寺 雲井一久 師

**横浜別院同朋の会** 午後1時30分より

12月18日(火)法話の予定をしています。

別院列座 家本久和 師

※11月28日の定例法話は「真宗本廟（東本願寺）報恩講」上山奉仕のため休みです。

※12月28日の定例法話は年末のため休みです。

※11月18日の同朋の会は休みです。

**浜別サンガ（門徒交流会）発会式**

11月11日(日)午後2時より

参加費1,000円(当日、受付可)

## ＜真宗落語＞【出演】桂 小春団治 師匠

かつてお寺は地域のコミュニケーションの中心であり、教育の場でもありました。たくさんの方がお寺を行き来していた時代もありましたが、現代のお寺は法事や葬儀などの仏事を頼む場所となり、そのお寺は門徒以外入ってはいけないような雰囲気もあります。しかしながら、仏事だけの場所ではなく、門徒でなくても自由に出入りできる場所が本来のお寺であります。

今回、身近な落語を通して、真宗の教えに触れたり、お通夜や法事、仏具の意味やお墓の知識などを、落語から伝えてみることにしました。ぜひ、ご参加下さい。

**別院声明儀式研修会のご案内**

《2018年度第3回声明儀式研修会》

【日時】12月10日(月)

午後1時30分～4時30分

【講師】友松雅英 師(東京2組西岸寺住職)

【講題】「葬儀について」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

《2018年度第4回声明儀式研修会》

【日時】2019年1月21日(月)

午前10時30分～午後4時

【講師】鈴木友好 師(本山堂衆)

【講題】「報恩講について」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

**東京教区報恩講団体参拝のご案内**

【日時】2019年1月28日(月)

【集合時間】9時

【集合場所】本願寺横浜別院

【行き先】東本願寺真宗会館(練馬区谷原)

【会費】3,000円(昼食、交通費込み)

【定員】15名(定員になり次第締め切り)

【交通手段】マイクロバス(15人乗り予定)

【解散時間】17時30分

(別院での解散となります)

毎年、別院同朋の会の方を中心にお参りしております。ぜひお気軽にご参加ください。

ご希望の方は別院までご連絡ください

(電話 045-841-3434)

担当：家本

## 編集後記

今年の当別院報恩講が勤まりました。紙面は報恩講の特集となりました。藤井慈等先生の法話から、言葉を紹介させていただきます。

「報恩講の仏花を一人で見立てたら、功德の独り占めだ。門徒が一人ひとり、一杯ずつ立てるんだ。総出で、浄土を莊厳するんだ。」「まさにその通りで、報恩講をお迎えするには、一人では決してできないわけです。ご門徒と一緒に仏具磨きをして、神奈川四ヶ組の僧侶と報恩講習礼を行ない、また本堂の莊嚴を参詣いただき、初めて報恩講となるわけです。まさに、報恩謝徳をなさるとおもいたつところであります。

秋の穏やかな気候は早くも終わりを告げ、肌寒い季節が近づいてきました。

(家本)

